

[様式F]

1. 研究課題名：

群馬県に降下した放射性セシウムの動態解析と将来予測

2. 研究代表者氏名及び所属：

角田 欣一（群馬大学大学院工学研究科）



3. 研究実施期間：平成 24～25 年度

4. 研究の趣旨・概要

群馬県における放射性セシウム汚染は、県北部から西部の山間部を中心に、赤城山麓にまで広がっており、特に赤城大沼においてはワカサギ、ウグイ、イワナなどの魚類に暫定基準値（500 Bq/kg）程度の高い放射性セシウム汚染が観測されている。本研究では、群馬県内の放射性セシウム汚染の実態を把握するとともに、特に、この赤城大沼について、その生態系に広がる放射性セシウム汚染を、他の水系の状況と比較しつつ、物質収支の観点から総合的に解析することにより、汚染機構を解明および汚染の将来予測を目指すものである。この研究は、行政の除染対策立案などの指針となることが期待される。

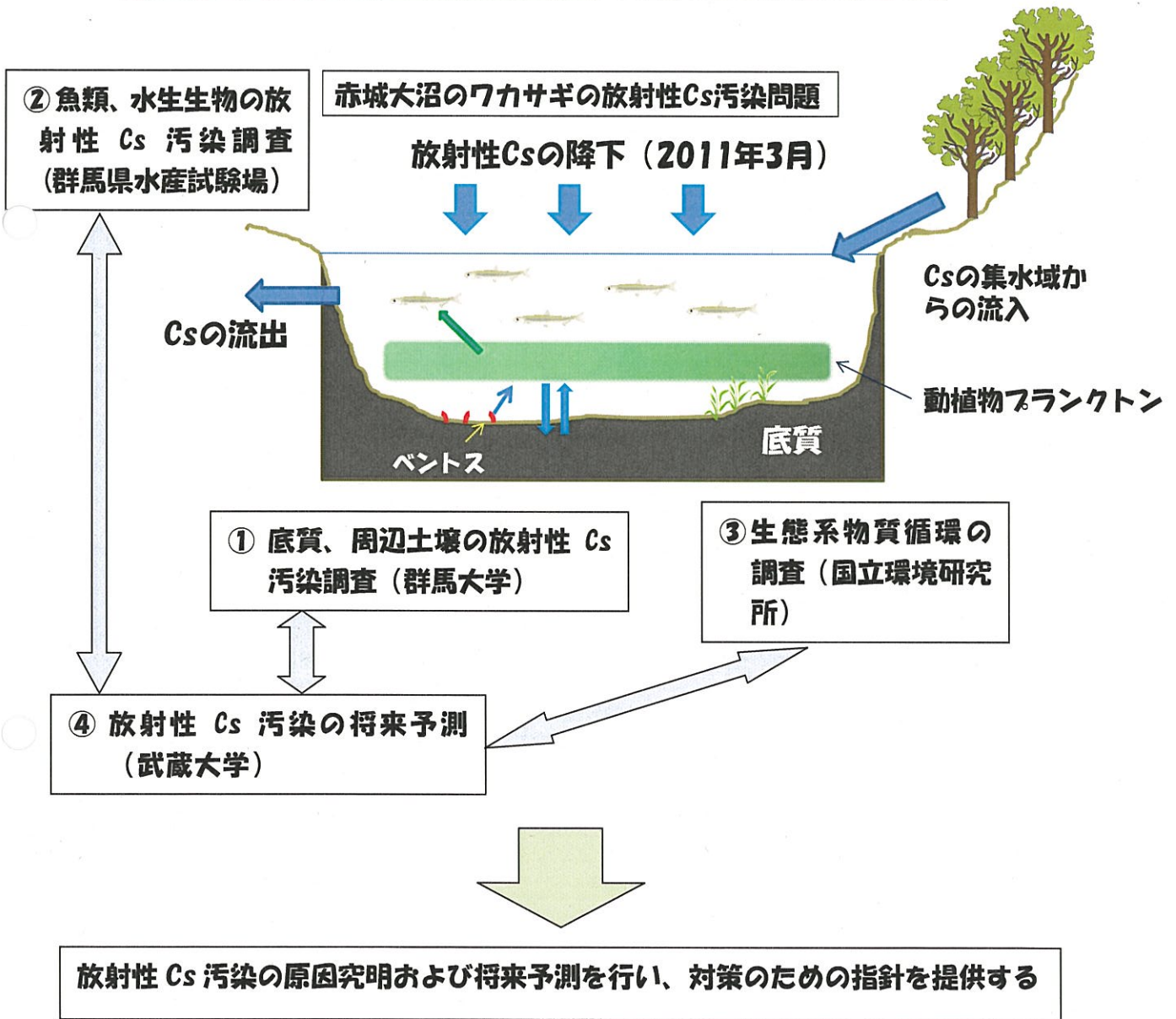
5. 研究項目及び実施体制

- ① 群馬県内の放射性セシウムによる土壌汚染と湖沼および渡良瀬川水系汚染の実態解明（群馬大学）
- ② 湖沼および河川生態系における放射性セシウムの動態解析（群馬県水産試験場）
- ③ 赤城大沼湖沼生態系の物質循環に関する研究（国立環境研究所）
- ④ 放射性セシウム汚染の将来予測（武蔵大学）

6. 研究のイメージ

群馬県に降下した放射性セシウムの動態解析と将来予測

赤城大沼のワカサギが約500Bq/kgの放射性Cs汚染を起こした
(現在も継続中) . . . 全国的にも唯一の例



注) ベントス：底質に住む生物 (ユスリカ幼虫など)